

2010年 年頭所感

あけましておめでとうございます。

昨年からの不況は、大学生の就職内定率 60%と報道され、年の始めは、本来ならば、これからの1年に希望をもつ時に先の見えない不安定さは、希望を持つことにはつながりません。昨年末には有料老人ホームの経営破綻等々、福祉の規制緩和の問題がさらに露見したように思えました。60%の内定率でも、福祉の現場にどっと人が押し寄せてくる兆しありません。

政権交代は、多くの人何かを期待したのです。しかし、何かは、なかなか形とはならず年を越しました。こんなことばかり並べても、なにもはじまりません。

さて、「まつぼっくり」は今年で7年目を迎えます。「まつど育成会」も現場の活動を開始して、7年目です。過去6年は多くの出来事がありました。グループホーム4件の設置。多機能型事業所「かりん」は2年目を迎えます。そして昨年11月には「地域活動支援センター あゆーる」が設立されました。音楽療法推進センター「もよ」も、よちよち歩きを始めています。社会福祉法人として、少しずつ地域に歩みを進めてきました。この6年、「よくぞ走らせていただいた」という思いです。

今年も、直往邁進は変わりなくとの思いと、さりとて、地域に事業が広がれば広がるほどに、「理念の共有」「支援技術の共有」が問われ、責任を痛感します。

映画化された「沈まぬ太陽」を昨年末にやっとの思いで観ることができました。3時間を超える大作になっていました。山崎豊子氏の原作に忠実に描かれているように思えました。渡辺謙という役者が、思い入れて作品化にこぎつけたと、聞いています。

しかし、この作品は多くの人複雑な思いが重なるのでしょうか。大作にもかかわらず、決して華やかに取り上げられているとは言えません。この作品を見終えてから、もう10年近く前に読んだ村上春樹氏の「アンダーグラウンド」という地下鉄サリン事件のインタビューをもとにした作品が読みたくなりました。

人の生き方は自分だけで決められないこともある。もし、今、自分の決意で事が成せるとしたら、それは相当に幸せなことであり、その境遇に感謝すべきだと改めて思いました。

「まつど育成会」は活動を開始してからの6年間、感謝すべき境遇にあったことを今更ながらに思います。その多くは「まつぼっくりのご家族の力」であったことは言うまでもありません。さらに6年間、理念を共有し、思いを持って職に挑んでくれた職員の身を粉にした働きぶりにも支えられてきたのです。「人こそ宝、人を大切に」を肝に銘じ、6年間を土台として、ゆっくり足場を固める年にしたいと考えています。深い川ほど緩やかに流れるといえます。直往邁進のありかを己に化しつつ、「チーム力」を今年のテーマとし、組織を固めてゆく所存です。

本年も、どうぞお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。



総括施設長 早坂 裕実子

